

1.

私と社会について。ここにおける社会とは私と関わりを持つ何かしらのコミュニティのことであり、例えば家族や学校、極端に言えば日本社会のことである。私にとっての社会とは、人々が生きていくうえで欠かせないものであると世間一般では考えられていると同時に様々なメリット、デメリットを生み出すコミュニティのことであると私は思っている。また社会には多種多様な捉え方があると考えられるし、その場に二人の人間しかいなくてもそこには二人だけの社会というコミュニティが出来ると私は思っているし、広義的にみると一人でいることすら社会といえるのかも知れない。また、ここでの社会というものは複雑で色々な捉え方ができ、多面的な見方によっては多種多様な色々な特徴をもっているコミュニティだと言えるのではないかと思う。人は生まれながらにして社会に属すなどと言われているが、私はこの自然発生的にも人為的にもある社会というコミュニティについてこれから考えていきたいと思っている。

2.私達は取材散歩に初日は秋田駅前に行った後にロッテリアとミスタードーナツへ行った。非常に残念ながら大雨で行く気が無くなるほどだったが、四苦八苦しながら秋田駅まで行き、まずミスタードーナツでドーナツを食そうとしたところ財布の中には140円しかなかったが一つ注文してしまった。そのせいで次に行ったロッテリアでは何も食べる事ができなかったがお金がなかった昔をちょっと思い出して懐かしかった。次の日はボーリングへ行った。ボーリングでは数ゲームをただけだったが、ギンホウさんのホームステイ先のお父さんとあって、200円割引券をもらったのはとてもうれしかった。

取材散歩では色々な場所へ行き、色々なコミュニティに触れられてよかったとは思う。

3.私はまず一番身近な社会性コミュニティである家族の父に話を聞いてみたい。父は、家族働いているということについてどう思っているか、自分よりも社会に属している期間が長いので、どのように社会、コミュニティをとらえているのかということを知りたいと思っている。また、父との思い出で一番印象深いのは昔に父は今の母と違う人と結婚しようとしていて、その方が韓国人で国際結婚は難しいということを父の両親に反対されてそれを諦めざるを得なかったということがあったという話を聞いたので国籍というものもある意味で一種のコミュニティと言えると私は思うので、そのコミュニティの違いによって様々な影響を与えるのであるということを知りながら考えさせられた。このような経験を含め父に話を聞いてみたいと思っている。

4.話し合い結果

まず初めに私は、父に家族についての話を聞いてみた。普段、父は多くは語らない寡黙な性格であるが、このような話をしたいといったところ快諾してくれたためにこのようなインタビューをすることができたが、この時期は仕事の都合上多忙で休日もないような生活を送っ

ているためにあまり長い時間話を聞くことはできなかった。まず父にとっての家族とは一番大事なものであって、かけがえのないものだということを言っていた。また、家族を養うために働いているとも言っていた。また父の話から考えるに、そのようなコミュニティや社会を維持することがとても大変なものだと思った。母がパートを少ししているだけでその収入では家族が生きられないので、父の働いて得た対価によって家族が生活できているという事実より、どのような社会においてもそのまま保持する、維持するという行為はとても労力がかかるものなのだと思う。また、コミュニティや社会に所属する上でそれぞれ何かしらの責任が生じるものであって、これが正しいのかどうかはさっぱりわからないが父は家族を養う責任があって、私自身はもっと勉学に励まなければならない責任があるなどと思ったせいも、もうちょっと勉強する気になってしまった。また、父は国家公務員として働いているのだが、ほかの家庭と比べると転勤が多く全国いろいろなところに住んでいた経験もあって、コミュニティや社会のトップ(ここで家族のトップを父とするのが適切かどうかは分からないが)によって、その社会自体が大きく左右されていくということがよく分かるし、それは日本の首相によって変わる景気などにもよく表れているのではないかと考えられる。また父の話聞いて、考えたのが一般的な社会を優先しすぎることによって生じる弊害である。父は今の母以外の女性と結婚しようとしていたが祖父の反対にあって、結局は結婚せずに(母には少し失礼なのかもしれないが)後悔の念があった様子であった。片一方の社会を優先しすぎると上手くいかないというのはその通りだと私自身思えるし、もう片方の社会だけでなく他のコミュニティを巻き込んでそのコミュニティを壊していく結果にすらなりえないと考えた。他にも盲目的に一つの社会に入れ込むといったような事で、昔は家族よりも仕事を優先している人々が今日より多かつたらしく、ただひたすらに家族をないがしろにしても働くといった社会生活的イデオロギーがあつたらしくその世代と、今日のゆとりと言われていた思想が違っている世代とで、ジェネレーションギャップと言われたらそれまでかもしれないが、問題を生じている事もあるといていた。この世代間も社会と呼べるのではないかと私は考え、いつかはこの世代間についての問題についても少しは考えていきたいと思ったし、父との対話を通じて父との考え方の相違を再認識させられた。

5.社会と私

インタビューを通じて、社会の捉え方、コミュニティの捉え方が世代間において大なり小なり違うのであるということを考えさせられた。また、いろいろな人がレポートとして書いているコミュニティも一種の社会であると言えるものが大半であるし、人が二人存在するだけで社会という捉え方もできるので、社会というものは生まれた時から所属するものであり、我々にとって欠く事の出来ないものである。

6.「コミュニティ」「コミュニケーション」とはなにか

「コミュニティ」とは、上で述べた社会とほぼ同義だと私は思っており、人と人の繋がりがだ

と考えている。また、自分ひとりであっても、自分というコミュニティに属していると言える場合もあるのではないか。

「コミュニケーション」とは、何かしに何かの意思を伝えることであると考えます。また、何かを何かだと考える事も自分自身とのコミュニケーションと言える。このコミュニケーションは現在最も重要視されている能力、技術であると考えますが、一般的に他人との会話、ふれあいがコミュニケーションだと思われがちだが、それだけがコミュニケーションではないと思う。

7. クラスについての感想

クラス全体で言えばとても真面目で話し合いがしやすかった環境であったと思う。前期にこの授業を取った時にも思ったのだが、このような話し合いは普段することがないのでこのような貴重な機会が持ててとてもうれしく思う。